
バカと根気と召喚獣

蓮夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと根気と召喚獣

【Nコード】

N7196Y

【作者名】

蓮夜

【あらすじ】

こんな筈じゃ無かった・・・
不本意な理由（自業自得）でFクラスに入った 橘 紫晞（たちばな しき）
彼がFクラスのメンバーと織り成す無気力な日々と召喚戦争の日々です。
ちなみに、タイトルの「根気」は思いつきです。

第1問

ここは、文月学園 世界初の特殊なシステムを導入した試験校である。

1つは試験召喚システム

もう1つは成績累進式のクラス分けである。

1年の終わりに振り分け試験を行い、上のAからFクラスを分ける。
明久「これが振り分け試験か、流石に難しいでも、これなら10問に1問はいける！」

俺「・・・ZZZ」

鉄人「遅いぞ！！橘！」

俺「げっ、鉄人」

鉄人「西村先生と呼べと言っとするだろうが
全くお前といい吉井といい困った奴らだ」

俺「吉井と同じと言うことは俺のクラスはFか・・・」

鉄人「わかっているじゃないか」

といい鉄人は俺に振り分け試験の結果を

手渡す。

鉄人「遅刻しない内に早くいけ」

俺「了解です」

俺は自分のクラスであるFクラスに急ぐ

俺「よお、雄二」

雄二「おっ、お前Fクラスなのか？」

俺「ああテスト時に爆睡したら終わってた」

雄二「……こいつを使えば……Aクラスも……」

何やらぶつぶつ言っているようだが

俺「とりあえず俺は座って良いか？」

と言いながら俺達が話していると、

明久「すいませ〜ん遅れちゃいました」

雄二「早く座れ！このウジ虫野郎！」

明久「いきなり罵倒！？」

俺「まあ座れよ」

といい明久に座るように促す。

福原「座って下さい。HRを始め…」

ガラガラと教卓が音を立てて崩れた。

俺「教卓ってこんなにもろかったか？」

福原「変わりを持って来るので自己紹介をしてみてください。」

と先生は職員室に向かった。

秀吉「では、わしからじゃの」

と秀吉から順に自己紹介が始まる。

「…土屋康太…」

「趣味は、吉井明久を殴る事です。」

何かカオスだなあ

明久「気軽に『ダーリン』と呼んで下さい」

「…ダーリン!!!…」

なんか不愉快なんだが・・・

雄二「最後は俺だな、Fクラス代表の坂本雄二だ代表でも坂本でも好きに呼んでくれ

さて、お前らに問う、

このクラスに不満はないか？」

「「「大ありじゃあ！！！！」」」

クラスが1つになった。

第2問

姫路「遅れてすみません。」

「「!？」」

そこにはAクラス确实と言われていた学年
次席がいた

雄二「とりあえず姫路座ってください」

姫路「分かりました」

雄二「さて、話を戻そう俺達FクラスにはAクラスに試召戦争を仕
掛ける」

「「勝てるわけないだろ」」

「姫路さんがいればそれでいい。」

と、不満を漏らす。まあ正論だと思う。1人除いて

雄二「まあまあ俺達には勝てる要素がある」

周りが騒がしくなる。雄二は急がず静かに
なるのを待つ

雄二「このクラスにはこいつ等がいる

まずは、言わずと知れた学年次席の姫路

そして、こいつはムッツリーニだ」

「あのムッツリーニか!？」

雄二「そして橘 紫晞コイツは無気力の塊だが実力は姫路にも劣らない。さらに俺も全力を尽くす。」

「Aクラス並みが三人もこれならいけるんじゃないか？」

雄二「覚悟は出来たな？総員、筆を取れ
これよりDクラスに戦争を仕掛ける。

明久、宣戦布告をしてきてくれ。」

明久「でも下位勢力の使者って大概酷い目にあうよね？」

まあ流石の明久でも分かるようだ。

雄二「安心しろ、俺は友を裏切らない。」

明久「うん、分かった行ってくる。」

あっ雄二の口車に乗せられた明久、ドンマイ

明久「酷い目にあった」

雄二「まあ当然だな」

明久「キサマヲクロス」

第3問（前書き）

明日はテストだあああ！勉強してねえ！
まあ自業自得何でスルーでお願いします。
では第3問をどうぞ！

第3問

島田「木下達がDクラスと戦闘を始めたわよ！」

現在僕は秀吉の部隊の後方にいる部隊の部隊長だ。

明久「まずは、戦線の様子を掴もう。」

「さあ来い！！この負け犬があ！！！」

「鉄人だと?!嫌だ!!鬼の補習は嫌だ!!」

鉄人「黙れ!戦争で0点になった者は戦争が終結するまでみっちり指導してやる。」

「いつ、嫌だ!だっ誰か助け…イヤアア…」

明久「よし大体雰囲気は分かった」

明久「島田さん、中堅部隊に通達」

島田「何か作戦?」

明久「総員退避と!」

島田「この意気地なし!」

島田「目を覚まさないこの馬鹿!」

明久「そうだね僕が間違ってた。やるぞ！」

「島田！前線部隊が後退しだしたぞ！」

島田「総員退避でいいわね？」

明久「そうだね僕らには重すぎた」

明久「横田じゃんどうしたの？」

横田「坂本からの伝言だ」

「逃げたらクロス！！！」

明久「総員突撃ッ！」

秀吉「明久よ援護に来てくれたのじゃな」

明久「秀吉大丈夫？」

秀吉「戦死は免れたがもう戦えないのじゃ」

明久「じゃあ早く補充を」

秀吉「うむここは任せたぞ明久！」

俺「雄二、テスト終わったから戦況でも観に行ってきたかい？」

雄二「別に構わんぞ出来れば止めを刺しに行ってくれと有難い。」

俺「出来ればな」

雄二「俺達も終わり次第合流する」

明久「あれ？紫晞なんでココに？」

俺「回復テスト終わったから見に来た」

明久「良かった、紫晞！戦線に加わってくれんだね！」

俺は周りで行われてる戦闘を見渡す。

「お姉様、何故美春の愛を受け入れてくださるのですか？」

島田「みつ、美春！何で此処に？」

美春「私はお姉様を見つけてここに来たんです。さあ私と保健室へ行きましょう。今ならベットが空いています」

島田「ウチはアンタと愛しあうつもりはないの！」

俺「俺は出来ればこの戦線に加わりたくない」

明久「何で？」

俺「あれをしてみる」

と俺はあそこで起きている戦いを指した。

明久「ああ確かに関わりたくないね」

俺「そういうことだ」

俺が戦線を離れようとするとき…

島田「よっ、吉井 アンタ見てないでウチをたすけなさいよお！」

美春「お姉様との愛を邪魔するなら殺します。」

明久「島田さん頑張ってる」

明久、懸命な判断だ

島田「吉井も橋も見てるなら助けてよ！」

俺「俺まで巻き込むのかよ!!」

美春「お姉様との愛を邪魔しましたね？」

殺します！」

明久「うわあ、きつ、来た！」

俺「しゃあない試獣^{サモン}召喚！」

合図と共に出てきたのは、デフォルメされた俺の召喚獣。灰色のパーカーを着て腰に2本の剣を差している。

教科 科学

Fクラス 橘 紫晞 & amp ; 吉井 明久

150点 & amp ; 29点

Dクラス 清水 美春

94点

明久「えっ、何で紫晞がそんな点数なの？」

俺「俺の普通の点数だけど」

明久「紫晞って以外と頭良いんだね」

俺「お前と一緒にすんな」

美春「お姉様との愛の障害となるなら誰であろうと殺します。覚悟
！！」

俺「さて、コイツを倒したら俺は戻るぞ。もうそろそろ姫路も来る
しな」

明久「紫晞、頑張つて」

俺「呑気な奴だ」

俺が呆れていると清水の召喚獣が俺の召喚獣に向かって来る、それを俺は腰に差した1本の剣で迎え撃つ。

美春「お姉様の愛に勝るモノはありませんっ！！！！！！」

執拗に狙ってくるため此処で勝負を着けようと思ひ剣を振り上げ牽制止まって様子を見ようとした次の瞬間

ダッ！…………ズバン！！

俺の召喚獣が清水の召喚獣を切り伏せた。

鉄人「0点になった者は補習っ！」

島田「西村先生！あの危険人物を早く補習室に！！！」

鉄人「ほう清水か、たっぷり勉強させてやろう。」

島田「ありがとう、橘おかげで助かったわ」

俺「頼むからもうあんなのとの勝負に巻き込まないでくれ！！！」

島田「極力努力するわ」

俺「100%じゃないんだな」

島田「それと吉井！」

あっ、死亡フラグだ。

そして軽めにスルーされた。

明久「なっ、何でしょうか？」

島田「ウチを見捨てたわね」

島田は明久の腕を掴み、人間の関節の限界を越えた方向に曲げている。

明久「島田さん！僕の腕はソッチの方向には曲がら……つぎやあああ……！」

明久……ドンマイ！

第3問（後書き）

ちよつとテストが終わるまで更新無理だと思えます次回は死んでる
と思うんで期待しないで待っててください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7196y/>

バカと根気と召喚獣

2011年11月28日02時57分発行